

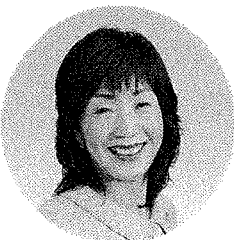
健診システム元年

OCHIS副理事長

作本 貞子

■ハイリスク者の見える化

OCHISでは昨年11月の「OCHISセミナー」において、「健康起因事故対策をサポートするデータに基づいたハイリ



スク者の見える化」をテーマに、定期健康診断結果を有効に活用するための健診システム構想をお示しました。そして、いよいよ本年、そのスタートを切ります。

さて、ハイリスク者とは、「死の四重奏」といわれる「肥満」「高血圧」「糖尿病」「脂質異常」の4項目を併せ持つ該当者のこととで、死に至るリスクが

徴は、情報のクロス化です。健診結果と睡眠時無呼吸症候群(SAS)スクリーニング検査、さらに時間外や事故歴等をも、有病者・休業者の増加、加齢による身体の下による事故急増など、事業者には新たなリスクが発生します。つまり事業者には「高齢であっても元気なドライバー」の確保が求められています。

健康起因事故防止対策はハイリスク者の見える化

正常者の30倍以上。しかも脳・心臓疾患を発生するリスク併せ持っている人のことを言います。したがって労災保険制度では、これらの該当者を対象に無料の2次健診制度を設けて、その利用促進や生活改善に向けての指導を行っています。

さらに本システムの特徴も徐々に変わりつつある

用するためにも、ハイリスク者を放置しないで、確実に医療につなげることを大前提となります。高年齢であっても元気に働く

まずドライバーの身体の見える化から始まります。そして健康なドライバーの確保は、定年制の延長などドライバー寿命の延伸にさえ寄与します。OCHISでは、本年スタートする「健診システム」を軸に、引き続き運輸事業者の事故防止と健康管理をサポートします。